

アセトアミノフェン含有製品の使用上の注意の改訂について

この度、令和5年1月17日付け厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長通知(薬生安発0117第1号)に基づき、アセトアミノフェンを含有する製品について、使用上の注意を改訂することになりました。何卒ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■改訂箇所及び改訂内容

改訂箇所	改訂内容(下線部追記)			
相談すること	まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。			
	<table border="1"><thead><tr><th>症状の名称</th><th>症 状</th></tr></thead><tbody><tr><td>薬剤性過敏症症候群</td><td>皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節(首、わきの下、股の付け根等)のはれ等があらわれる。</td></tr></tbody></table>	症状の名称	症 状	薬剤性過敏症症候群
症状の名称	症 状			
薬剤性過敏症症候群	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節(首、わきの下、股の付け根等)のはれ等があらわれる。			

■対象製品

かぜ薬

- ・ネオ真治ゴールド錠
- ・ネオ真治ゴールドカプセル
- ・キュキュソフトG
- ・ハイカゼ顆粒α
- ・オイヒ
- ・廣貫堂ネオ真治S
- ・新カンボーエース
- ・顆粒ネオ真治S
- ・クミアイ感冒ソフトカプセル
- ・セネツロンソフトカプセル
- ・ハイカゼLカプセル

解熱鎮痛薬

- ・ずつう・はいた・神経痛「廣貫堂」
- ・新マルコヒロリン

上記品目のうちネオ真治ゴールドカプセル及びハイカゼLカプセル以外につきましては、製造中止のため、今回の使用上の注意改訂も含めて、今後添付文書等の改訂は実施致しません。

* 対象製品の改訂後の添付文書内容をご覧になりたい方は、「独立行政法人 医薬品医療機器総合機構」のホームページ内の「一般用医薬品・要指導医薬品情報検索ページ (<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/otcSearch/>)」において、製品名を検索し、最新添付文書情報を閲覧くださいますよう、お願い申し上げます。

総合感冒薬

第②類医薬品

ハイカゼシカプセル

ハイカゼシカプセルは、せきの中枢に作用して、せきを鎮めるジヒドロコデインリン酸塩、たんどのきれをよくするグアヤコールスルホン酸カリウム、そのほか、抗ヒスタミン成分、解熱鎮痛成分などを配合した総合感冒薬です。



使用上の注意

❌ してはいけないこと

〔守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります〕

1. 次の人は服用しないでください
 - (1)本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - (2)本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
 - (3)12歳未満の小児。*
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないでください
他のかぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等（鼻炎用内服薬、乗物酔い薬、アレルギー用薬等）
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください
（眠気等があらわれることがあります。）
4. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けてください
5. 服用前後は飲酒しないでください
6. 長期連用しないでください



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください
 - (1)医師又は歯科医師の治療を受けている人。
 - (2)妊婦又は妊娠していると思われる人。
 - (3)高齢者。
 - (4)薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - (5)次の症状のある人。 高熱、排尿困難
 - (6)次の診断を受けた人。 甲状腺機能障害、糖尿病、心臓病、高血圧、肝臓病、腎臓病、胃・十二指腸潰瘍、緑内障、呼吸機能障害、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、肥満症
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この添付文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい
泌尿器	排尿困難
その他	過度の体温低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (ステイブス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死融解症 急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらっとする、血尿等があらわれる。
無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。
呼吸抑制	息切れ、息苦しさ等があらわれる。

裏面もお読みください。

3. 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この添付文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください
便秘、口のかわぎ、眠気
4. 5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この添付文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

【効能・効果】

かぜの諸症状（鼻水、鼻づまり、くしゃみ、のどの痛み、せき、たん、悪寒、発熱、頭痛、関節の痛み、筋肉の痛み）の緩和

【用法・用量】

次の量を、食後なるべく30分以内に水又は白湯にて服用してください。

年齢	1回量	1日服用回数
成人（15歳以上）	2カプセル	3回
12歳以上15歳未満	1カプセル	
12歳未満	服用しないでください	

〈用法・用量に関連する注意〉

- (1)用法・用量を厳守してください。
 (2)小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。
 (3)カプセルの取り出し方
 右図のようにカプセルの入っているPTPシートの凸部を指先で強く押し、裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用してください。
 （誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります）



【成分・分量】

1日量（6カプセル）中

成分	分量
アセトアミノフェン	900.0mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	7.5mg
ジヒドロコデインリン酸塩	18.0mg
ノスカピン	48.0mg
dl-メチルエフェドリン塩酸塩	60.0mg
グアヤコールスルホン酸カリウム	240.0mg
無水カフェイン	75.0mg
チアミンジスルフィド（ビタミンB ₁ ）	24.0mg
リボフラビン（ビタミンB ₂ ）	12.0mg
ゴオウ	3.0mg

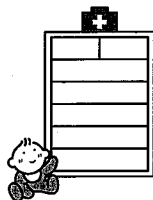
添加物として、メタケイ酸アルミン酸Mg、バレイシヨデンブ、セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、カルメロースCa、カラギーナン、ソルビタン脂肪酸エステルを含有する。

〈成分に関連する注意〉

本剤に含まれるビタミンB₂により、尿が黄色になることがあります。

【保管及び取扱い上の注意】

- (1)直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
 (2)小児の手のとどかない所に保管してください。
 (3)他の容器に入れ替えないでください。
 （誤用の原因になったり品質が変わります。）
 (4)使用期限の過ぎた製品は使用しないでください。




■お問い合わせ先

本品に関するお問い合わせは、お買い求め先、または下記にお願い申し上げます。

株式会社 廣貴堂 「お客様相談窓口」

電話番号：076-424-2259

受付時間：9時から17時まで（土・日・祝祭日を除く）

製造販売元
 株式会社 廣 貴 堂
 〒930-0055 富山市梅沢町2丁目9-1

副作用被害救済制度の問い合わせ先
 （独）医薬品医療機器総合機構
http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html
 電話 0120-149-931（フリーダイヤル）